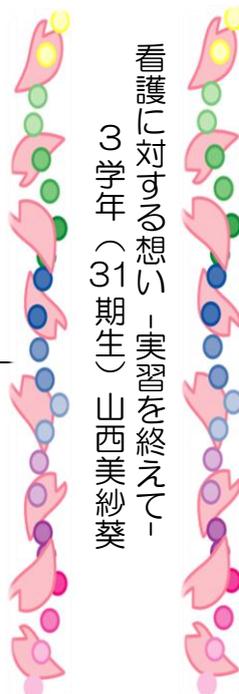




トヨタ看護学校だより

発行
トヨタ自動車株式会社
トヨタ看護専門学校
発行人 辻 秀樹
編集人 堂山岳之



看護に対する想いー実習を終えてー
3学年（31期生） 山西美紗葵



約一年かけて行ってきた領域実習が終わりました。実習を終えて、自己の看護師としての課題を明確にすることができました。特に改善していきたいことが二つあります。一つ目は患者様の訴えのままに行動するのではなく、専門職であるという意識を持ち必要性を伝えて、再度促していくことです。

実習中から予測できることに対しては、事前にセリフを考え、促すことができましたが、叱咤の出来事に対しては、必要性を伝えることができず、患者様の訴えのままに行動してしまう部分がありました。看護師として、患者様の訴えのままに行動するのではなく、必要性をアセスメントし、必要があった場合は患者様にも必要性を伝えて促していくことが大切であると学びました。そのためには、自身も十分に必要性を

理解し、何となく援助をするのではなく、目的を明確にして関わる必要があると学びました。また、時間を空けて促し、患者様の性格から促し方を考え工夫し、患者様に適した看護が提供できるような関わっていきたいと思います。

二つ目は、報告・連絡・相談が不足していたということです。私は、誰にどんな影響があるのか考えることができていませんでした。実習を通して、患者様にもグループメンバーにも影響を与えることがあると理解できました。どんな影響を及ぼすのか考え、自己判断する前に困ったことや迷ったことが

あったら報告・連絡・相談を意識して行っていききたいです。



また、今まで実習で沢山の方を受け持たせていただきましたが、患者様に同じ価値観や生活スタイルの方はおらず、患者様のニーズを把握した上での個別性のある看護が必要であると実感しました。そのためには、コミュニケーションが重要であり、日々の援助や訪室時のコミュ

ニケーションを大切に、患者様がこれまで生きてきた上での価値観やこれまで大切にしていた物を把握し、尊重して関わっていききたいです。

実習が終わり、国家試験に向けての勉強に追われています。無事、看護師になれた際には、実習で得た自己の課題を思い出し、理想の看護師になれるように努力していきたいです。





クリスマスキャロルに参加して
1 学年（33 期生）佐久間琴子



多くの人がクリスマスキャロルと聞いて、どのような事をするのか、想像がつかないと思います。私はカトリックの高校を卒業したのでクリスマスキャロルには馴染みがありました。病院で行われるものは見たことはありませんでした。

クリスマスキャロルに参加するにあたって一年生全員でクリスマスカードを作りました。折り紙やリボンなどを使い、一つ一つ丁寧に描きました。色とりどりのクリスマスカードを見ると、クリスマスキャロルに参加するのが楽しみになっていました。

実際にクリスマスキャロルに参加すると、歌いながらリズムに合わせて歩くことは難しく、最初は周りを見る余裕がありませんでした。しかし、心と顔を上げると患者様が病室の中から拍手をして下さったり、笑顔で手を振って下さったりすることがとても嬉しく感じました。まだ実習などもなく、患者様と関わる経験のない私たちでも、患者様を笑顔に出来るのだと自信になりました。

また、患者様の様子から私たちも学ぶことが出来ました。季節を感じるイベントが入院生活を送っている患者様にとって闘病意欲につながることも、やすらぎにつながることもわかりました。入院中、家族と行事などを共有できない患者様にとって家族とふれあうよい機会となっている様子が見られ、改めてクリスマスキャロルの必要性が分かり、参加してよかったと思いました。



現在、私は看護学生としてたくさんの方の事を学んでいます。クリスマスキャロルでは座学では学ぶことのできない、患者様にとっての喜びを感じる事ができました。加えて、患者様のことを第一に考えている看護師の気づかいを目の前で見ることができ、看護師の視点というものも学ぶことができました。患者様にとっての安楽や、気分転換になる環境づくりの実際を知れたことは今後に役立つと思います。

今回の体験はこれから看護をさらに学んでいく上で、考えを深めていく良いきっかけとなったと感じます。今後の生活につなげていき、患者様にとってよりよい援助を行うことができる看護師になれるよう頑張っていきたいです。



はじめてミュージカルを鑑賞して
1学年(33期生) 小川栞璃



令和元年十一月十五日、私たち第三十三期生は名古屋四季劇場へ芸術鑑賞に行きました。

今回鑑賞した作品はアメリカ音楽の魂と称されるガーシュウィン兄弟の代表曲が散りばめられたミュージカル「パリのアメリカ人」です。舞台は第二次世界大

戦直後のフランス・パリで、戦争中の暗い時代に別れを告げ、新しい時代に向かっていく若者たちの恋や友情、成長が描かれていました。

私はこれまでミュージカルを見たことがなかったのですが、とても楽しみにしていました。劇場に着くと、たくさんの方が外で待っていました。開場し、中に入ると、今回の作品について語り合っている人たちがたくさんいて、会場全体が開演を楽しみにしている雰囲気溢れていました。そして私もさらに楽しみになり、ワクワクしながら開演を待っていました。開演してからは、歌やダンスに引き寄せられるように見入ってしまいあっという間でした。

私が一番印象に残っているのは、舞台転換も

ダンスの一つになっていたことです。例えば、ピアノを移動する際は女性がピアノの上でポーズをとり、男性が数人で回しながら移動していました。また、映し出される映像はその場で画家が描いているかのように線が描き加えられ、少しずつ建物が完成していききました。このような動きも全て、ストーリーの一部になっていて、動きの意味が分かるストーリーもより理解することができ、とても楽しかったです。



今回の芸術鑑賞を通して、様々な芸術に触れ

ることで幅広い知識や教養を身につけることができ、看護師として働いた際に患者様とコミュニケーションをとるきっかけにもなると感じました。患者様との信頼関係を築くためには日常の何気ない会話が大切だと思います。

私は、これからたくさんのご経験を、どんな人とも、どんな関係の人とも、コミュニケーションが円滑に行えるよう知識や教養を増やしていきたいと思えます。





自主研修旅行で学んだ事
2学年(32期生)中村優花




今回の自主研修旅行を通して、一日目のディズニーアカデミーではおもてなしの心を学び、二日目、三日目のパーク体験や、横浜中華街ではクラスの仲の良さや絆の強さを感じました。ディズニーのキャストと看護師には共通点があります。それは、対象としている人は状態

が違いますが、相手の気持ちに寄り添い、「今困っている事はなんだろう」と思いやる事だと考えます。

パーク体験でも、キャストの人たちは常に笑顔で相手の目を見て、挨拶をしていました。当たり前前のことかもしれないけれど、そんな当たり前前のことを日常的にできていて、継続しているのはとても素晴らしいことだと感じました。その笑顔や挨拶・態度によって相手に伝わるものが変わり、一つ一つの行動が相手にたくさん影響を与えているのだと改めて感じました。そして、相手の気持ちを考える上で分らないことは沢山あり、その体験が自分にないと相手が求めていることが分からず、適切な対応をとる事ができないという話

がありました。確かに自分が経験していないことを考えても難しく、どう行動したらいいかわからなく、何にもできないと感じてしまいます。

出来る限り、自己の経験を増やし、その時の気持ちや、周りにどんな行動を求めているのかを考えることで相手の気持ちに近づけると感じました。ディズニーアカデミーでの学びは、とても貴重な体験になりました。

二日目、三日目の自由行動の時間ではクラスのメンバーとディズニーや横浜中華街を楽しみ、交流を深めることができました。約一年半一緒にいてみんなのいい所や、仲の良さは感じていたけれど、この自主研修旅行を終えてさらに絆が深まったと思います。一月からは領域実習

が始まり、四月からは三年生になります。実習や模試・国家試験など行き詰ってしまうことも沢山あると思いますがこのメンバーで助け合い、

乗り越えていきます。相手への感謝の気持ちを忘れず、日々頑張っていこうと強く思うことが出来た自主研修旅行になりました。



3年生進級に向けて
2学年(32期生) 徳田花子



入学して二年が経とうとしています。振り返ると、講義や課題、実習など大変なこともたくさんありました。

一年次の講義では、解剖生理学や微生物学などの基本的なことから学んでいきましたが、必要な知識が膨大で、本当に覚えることができるのかと日々不安になりました。それに加えて、

技術練習も始まり、看護に必要な技術を一つずつ身につけていかなければなりません。多くの助言を先生方からいただきながら、朝・昼・授業後など空いている時間を見つけて練習に励みました。そして二月には初めての実習である基礎看護学Ⅰ期実習がありました。実習では、練習してきた看護技術を用いて日常生活援助を中心に行いました。しかし、援助を行う以前に患者様とコミュニケーションをとることの難しさに直面しました。自分から話しかけることはできても、話を展開することができず悩みましたが、様々な話をしてくださった患者様や、沈黙にならないように話題を展開してくれたペア学生のおかげで、少しずつコミュニケーション

をとることができるようになったと思います。



二年次は、看護過程を学び、基礎看護学Ⅱ期実習では実際に看護過程の展開を行いました。アセスメントするための情報をどのように患者様から聞けばいいのか分からず、一方的に質問しているような状況になってしまったこともありましたが、患者様が生活している環境にも多くの情報があり、視野を広くすることの必要性を実感しまし

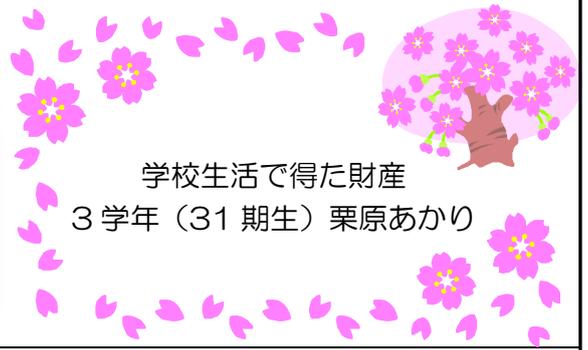
た。また日々よくなっていく患者様を見た時や「ありがとう」と言っていたいた時は、とても嬉しくやりがいを感じました。



三年次では、領域実習が始まります。今までとは違い実習期間も長く、より専門的な知識も必要になります。患者様に必要な看護がなにかを常に考え、学ぶことを怠らないようにしていきたいです。また、実習と



同時に、看護師国家試験に向けての勉強も行わなければなりません。実習と勉強の両方を行えるのかとても不安ですが、今までも支え合ってきたクラスメイトとともに乗り越えていきたいと思えます。そして、全員で国家試験に合格し、それぞれが思い浮かべる理想の看護師になれるように頑張りたいと思います。



学校生活で得た財産
3学年（31期生）栗原あかり



三年間の学校生活を
通して、看護師という同
じ目標を目指し努力し
続けるクラスメイトと
出会えたことが何より
の財産であると感じて
います。この三年間、終
わりの見えない大量の
課題や、慣れない環境で
の初めての實習、約一年
間続く専門領域實習な

ど、何度も心が折れそうになり、本当に自分は看護師に向いているのだろうかと悩むこともありました。しかし自分の周りには、同じ環境で同じような悩みを抱え、それでも頑張っているクラスメイトがたくさんいました。實習中の朝、更衣室で「おはよう。今日も一日頑張ろうね」と互いに声をかけ合う何気ない会話でも、つらいのは自分一人ではない、今日も頑張ろうという気持ちになりました。自分一人では乗り越えられなかったことも、クラスメイトがいてくれたからこそ一つ一つクリアし、今の自分があると思っています。

一年生の時から何度も先生方から厳しい指導を受け、何度もクラス全員で話し合いをしてきました。揉めたり、意

見がぶつかり合ったりすることはあっても自分の正直な気持ちを素直に言い合える最高のクラスだと思っています。盛り上がる時は大いに盛り上がり、真面目に取り組むときは真剣に、そういったメリハリをしっかりとつけられるところ自分たちの良さであると思います。



これまで多くの時間

を共に過ごしてきたクラスメイトも、卒業後は違う病院への就職や進学、同じ病院でも違う病棟への配属など、バラバラに進んでいきます。それぞれ場所で活躍し、いつか「あの時、こんなことがあったね」と集まって話せるように、ずっと関係が続いていけばいいなと思います。

そして絶対に忘れてはならない出来事として、私たちは二年生の夏、大切な仲間との別れを経験しました。誰よりも看護師になるという思いが強く、誰よりも努力をしていた彼女との突然の別れに大きな衝撃と悲しみを感じました。彼女との別れは私たちにとって命の大切さ、尊さを考える機会となり、看護師になりたくてもなることができなかつた彼女の分も、絶対に看

護師になるのだという強い思いを持ってこれまで頑張ってきました。この三年間で出会えた人、学校生活を支えてくださったすべての人に感謝し、これから人の命とかかわる看護師として努力をし続けて行きたいと思っています。





新任職員 挨拶



成瀬さん

令和元年十月より、トヨタ看護専門学校に異動となりました、成瀬廣恭（なるせひろやす）です。放射線業務の臨床現場から事務的な業務職場ということで、少々戸惑いもありましたが、皆さんの協力をいただきながら日々の業務対応に努めています。

もう暫くは、臨床現場との二足のわらじで勤務していきますので色々ご迷惑をおかけしますが、職員皆さんの職場環境と何より学生さんの学校生活がより充実できるよう、学校環境（ソフト・ハード両面）向上に努めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。